

農林水産商工常任委員会資料

(令和7年5月21日)

項 目	ページ
■ 松くい虫防除に係る空中散布について 【森林づくり推進課】	2
■ 藻場保全の教育・普及啓発動画制作について 【漁業調整課】	3
■ 境漁港クロマグロ初水揚げについて 【境港水産事務所】	4
■ 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【農地・水保全課】	5

農 林 水 産 部

松くい虫防除に係る空中散布について

令和7年5月21日
森林づくり推進課

海岸防災林など重要な松林を対象に、松くい虫被害の予防を図るため、県下6市町において薬剤の空中散布が実施されます。

1 実施予定時期（※天候により変更あり）

第1回目 5月31日（土）～6月4日（水）

第2回目 6月16日（月）～6月18日（水）

2 実施予定市町及び面積

区 分	実施市町数	実施面積（ha）	備 考
令和7年度（A）	6	1,006	1市、5町
令和6年度（B）	6	1,006	1市、5町
差引増減（A-B）	0	0	

※事業の実施主体は各市町。

＜令和7年度実施予定市町＞

中部地区：三朝町 192ha、湯梨浜町 47ha、北栄町 59ha

注）三朝町、湯梨浜町の散布は第1回目のみ

西部地区：米子市 179ha、大山町 386ha、伯耆町 143ha

3 県民への情報提供

新聞広告、ホームページ、関係機関や教育機関への通知などにより広報・周知を行う。

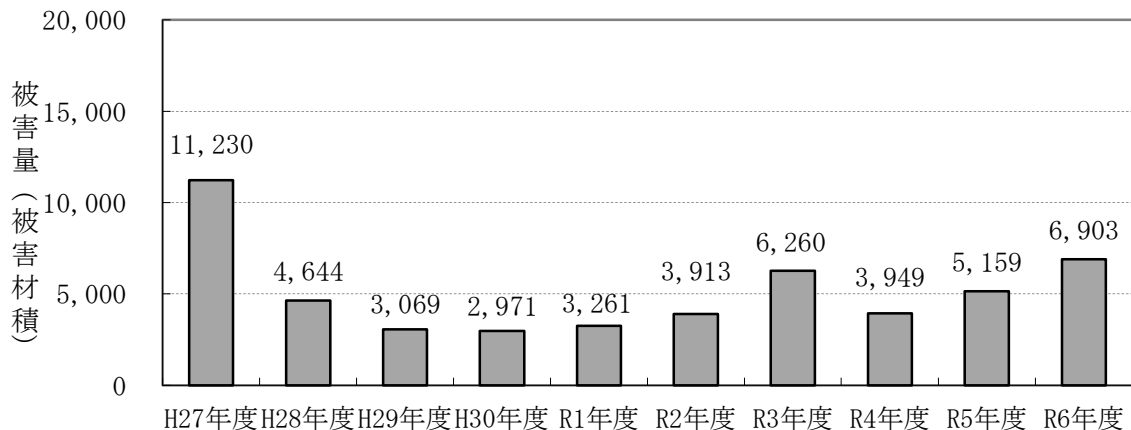
4 秋期の松くい虫防除

県と市町は、海岸防災林などの重要松林で発生した被害木の伐倒駆除等を行い、被害の拡大防止を図る。

【参考】

松くい虫被害量の推移

（単位：m³）



※令和6年度の被害量は集計中のため暫定値

※近年被害量が増加傾向であるが、夏場の高温小雨によるマツへのストレス増加が一因と考えられる。

令和7年5月21日
漁業調整課

藻場に関する教育・普及啓発動画が完成し、利活用を進めていきますので、報告します。

1 普及啓発動画「萌える海藻！鳥取県の豊かな海を育む大作戦」

- (1) 内 容 海環境保全のため、漁業者、漁協、行政等で一体となり、海藻「アラメ」の藻場造成、保全活動（アラメの種苗育成、ウニ駆除、海藻の養殖、海洋環境を守る仕組み等）を行っており、その様子を紹介する。この動画を通じて海の課題を自分ごととして感じてもらい、藻場の造成や保全活動への理解を促す。
- (2) 対 象 中学、高校、大学生や社会人などで、海などの環境に関心のある方
- (3) 時 間 約8分
- (4) 利 用 県のホームページ（YouTubeとっとり動画ちゃんねる）、山陰海岸学習館（ジオパーク）、とっとり賀露かっこ館、境港おさかなパーク（境港水産物地方卸売市場）等で、普及啓発を図る。
- (5) 制作主体（財源）
鳥取県（単県）※鳥取県の豊かな海を育む協議会（鳥取県漁業協同組合、田後漁業協同組合、赤碕町漁業協同組合、鳥取県栽培漁業協会、鳥取県等）との協働制作



2 小学生向け学習動画「藻場ってなに？」

- (1) 内 容 豊かな海のめぐみを将来に引き継ぐため、小学校の児童に鳥取の海や藻場のことを考えてもらうきっかけとして、鳥取県沿岸全域で課題となっているムラサキウニによる食害に伴う藻場の衰退や、海で起きている様々な問題を学ぶ。
- (2) 対 象 小学校高学年（小学校高学年から環境学習、地域学習を開始）
- (3) 時 間 約16分
- (4) 利 用 磯焼け問題について小学生が気軽に学べる動画に加え、指導者が詳細を確認できる補助教材及び生徒が学んだことを書く「気づき」シートも作成し、鳥取市内の小学校・義務教育学校等44校に配布した。
- (5) 制作主体（財源）
鳥取ブルーカーボンプロジェクト「豊かな海の再生を目指して」実行委員会（鳥取県漁業協同組合、鳥取県栽培漁業協会、農林中央金庫、鳥取県等）※令和4～6年度日本財団「海と日本プロジェクト」の助成事業（財団10/10）を活用



境漁港クロマグロ初水揚げについて

令和7年5月21日
境港水産事務所

5月14日（水）に境漁港において、宮城県所属のまき網漁船がクロマグロの初水揚げを行いました。前年より7日早い水揚げで、これは記録が残る昭和57年以降最も早い初水揚げとなります。

	令和7年	令和6年
水揚げ日	5月14日（水）	5月21日（火）
水揚げ船団	第21たいよう丸（宮城県）	第21たいよう丸（宮城県）
水揚げ量	8.6トン	19.7トン
水揚げ本数	63本	151本
体重	29～225kg（平均136kg）	67～218kg（平均131kg）
単価（高値）	2,890円/kg	2,910円/kg

<初セリ式>

日時 5月14日（水）午前8時30分

場所 境漁港1号上屋

内容 ・境港天然本マグロPR推進協議会 島谷副会長挨拶
・境港水産事務所長手締め

主催 境港天然本マグロPR推進協議会



マグロ初セリ式（1号上屋内）

<PR活動について>

○境港天然本マグロPR推進協議会によるPR活動

- ・5月15日（木）、関西本部とともに関西圏の百貨店（阪神梅田本店、あべのハルカス近鉄本店）にて、初水揚げPRイベントを実施し、試食等を行い盛況であった。
- ・6月8日（日）に第12回境港まぐろ感謝祭を開催予定である。

日時：令和7年6月8日（日）午前10時～12時30分

メイン会場：境港水産物地方卸売市場2号上屋

内容：マグロ解体ショー、刺身・切り身・マグロ丼販売、マグロ体重当てクイズ等

主催：境港天然本マグロPR推進協議会

- ・6月20日（金）に銀座三越、21日（土）に伊勢丹浦和店において、首都圏向けPRイベントを開催予定である。
- ・首都圏及び関西圏の百貨店へは、PR資材（のぼり旗、シール、ポスター）を提供し、各店舗でのPRに活用いただく予定である。量販店向けには、県がPOP等のPR資材をホームページからのダウンロード形式で提供している。

○その他

- ・6月に境港市子育て支援課が市内12か所の保育園等で実施する食育事業「マグロ集会」（給食へのマグロの提供、DVD視聴等）に、境港水産事務所も「語りべ」として参加する。

<太平洋クロマグロ資源管理の取組>

- ・境港に水揚げする大中型まき網漁業者は、平成23年から全国に先駆けて大型魚（30kg以上）の漁獲量を制限するなど、率先して資源管理に取り組んでいる。
- ・平成27年には、日本海で漁獲する大中型まき網における大型魚の漁獲上限を1,800トンとし、8月の操業自粛を開始した。
- ・平成30年からは、法律に基づく漁獲可能量（TAC）制度に移行し、令和4年からは日本海で操業する大中型まき網において、公的IQ（漁船毎漁獲割当てによる管理）が導入されている。
- ・今年度の日本海における漁獲枠（12船団への漁船毎漁獲割当ての合計）は、前年より増枠され2,084トンである。（前年：1,871トン）
- ・なお、令和7年から漁獲割当てによる管理を行う期間が5月1日～7月25日となった。（前年：5月15日～7月31日）

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

令和7年5月21日
農地・水保全課

【変更分】

主 務 課	工 事 名	工事場所	契 約 の 相 手 方	契 約 金 額	工 期	契約年月日	変 更 理 由
農地・水保全課 (中部総合事務所農林局)	観ノ目ため池改修工事	倉吉市 尾原	株式会社 共栄組 代表取締役 山崎 稔	(当初契約額) 124,960,000円	令和6年10月7日 ～ 令和7年11月17日	(当初契約年月日) 令和6年9月10日	
				(第1回変更後契約額) 142,014,400円 (変更額) 17,054,400円	令和6年10月7日 ～ 令和7年11月17日	(第1回変更契約年月日) 令和7年5月8日	・当初、仮設道路に使用する盛土材は他工事から流用する計画であったが、流用土の含水比が高く使用出来ないことが判明し、購入土に変更したことによる工事費の増額。 ・ため池内の泥土処分について配合試験の結果、添加剤を増量する必要が生じたことによる工事費の増額。